

妙法寺だより

平成三十年
三月号



春のお彼岸

3月21日(春分の日)



お彼岸について

- 一、お彼岸の法要は**3月21日(春分の日)** 午後2時から営みます。ご家族そろってご参列ください。
- 一、**卒塔婆の申込は、3月13日までに**お申込ください。同封の申込用紙にご記入頂き、返信専用封筒またはFAXでお申込ください。
- 一、法要中は、「方便品」ほうべんぼん「お自我偈」おじがげのお経をお読みし、お題目をお唱え致します。お経本も用意してございますので、ご一緒にお唱えください。
- 一、**墓参用のお花は、お彼岸の期間**
3月18日～24日まで用意してございます。
【数に限りがございます】
- 一、別冊「ぶつきょうスクール」を同封致しますので、ご参考ください。
- 一、一年以上経ちました古い卒塔婆は、お焚き上げ致しますので所定の場所にお持ちください。
- 一、**当日の受付では、護持費(墓地管理費)**を受付けております。領収証が必要な場合はお申し出ください。



地元彼岸棚経のご案内

3月

18日：中村地区 三丁目 四丁目 方面

19日：下地区 二丁目

20日：金房地区

22日：上矢部羽根沢地区

23日：歌舞伎地区一丁目

24日：旭区南本宿方面

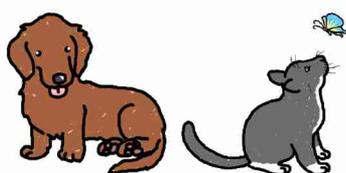


どうぶつ供養会について

3月21日（春分の日）午前11時より本堂にて、恒例の「どうぶつ供養会」を行います。ご納骨されている方ははじめ、ペットを亡くされた一般の方もお参り頂けますので、是非ご参列、ご焼香ください。

※ご納骨をされていらっしゃる方には、専用の卒塔婆申込用紙を郵送させていただきます。

※ご納骨をされていない方で、卒塔婆供養をご希望の方は、寺務所までお問合せください。



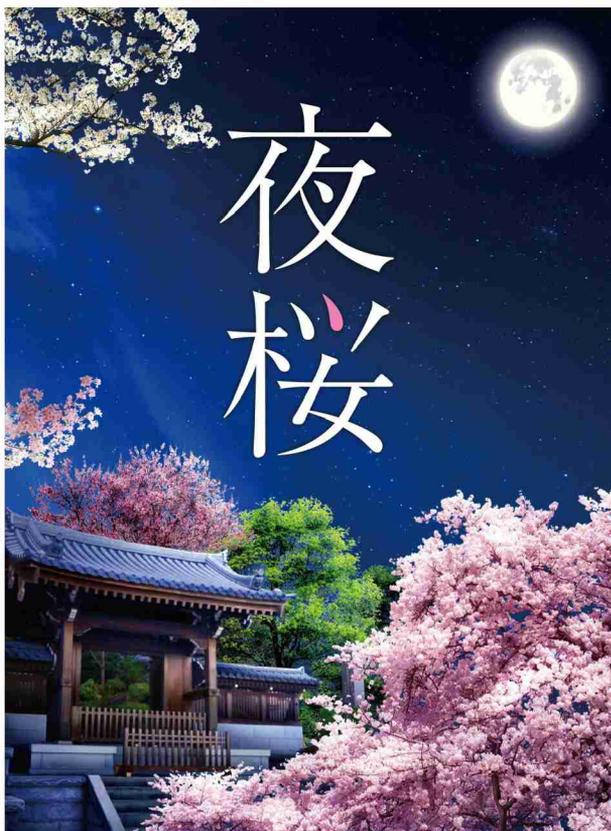
どなたでも
ご参加頂けます



※雨天の場合は客殿にて行います
※花見会の参加費は1000円

午後2時〜 はなまつり法要 於 本堂
3時〜 お花見会 於 境内

釈尊降誕会 はなまつり 4月8日(日)



夜桜

妙法寺では、桜の咲く頃、自慢の桜をライトアップして、夜の境内を開放しております。点灯時間は、日暮れから午後10時迄です。※開花状況はホームページをご確認ください。

法要後、妙法寺自慢の桜のもとお花見会を行います。お餅を食べたり、甘茶を飲んだり、花より団子の方も大歓迎です。たくさんのご参加お待ちしております。





雪が舞う寒い日



日蓮宗と浄土宗のコラボ

2月2日(金)の雪がちらつく寒空の中、浄土宗のお坊さん井上広法さんより「日蓮宗の水行を是非やってみよう！」と要望され、一緒に水行を行いました。井上さんはテレビ朝日の「ぶっちゃけ寺」を企画した方で、いま日本で1番テレビに出演されているお坊さんです。他宗の方と水行するのは初めてのことでありましたが、宗派を超えて研磨し合う良い経験になりました。



1月8日(金)東戸塚のセントラルスポーツフィットネスの会員の皆様が、法話・坐禅体験にいらっしやいました。

1月13日(土)に行われた初題目会・新年大祈禱会は、行事の中で最も多い11名の僧侶が出席します。そして今年秋田県男鹿半島から「なまはげ」が登場、大迫力の太鼓演奏を披露してくれました。演奏後は記念撮影で大人気のなまはげさんでした。



行事報告

くお寺でこんなことがありましたく

1月28日(日)当山で、総本山身延山の本願人会神奈川県支部会が行われました。「本願人」とは、身延山への護持の篤い方々の集まりで、総本山が年に一度の集まりに、当山を使って頂けたことは光栄なことであります。総本山からは総務猊下(身延山で2番目に偉い方)がお出でになられ、お経を上げて下さいました。



井上総務猊下



身延山の本願人のみなさま

シリーズ

うちのお寺は日蓮宗

第二十四段

先日、1月11日付のネット版の産経新聞のなかに筑波大学名誉教授の村上和雄先生が書かれた、「祈りは遺伝子を活性化する。慈悲の心が免疫機能の強化につながる」というコラムを見つけ、大変興味深い内容でしたので、内容をわかりやすく要約しご紹介させていただきます。

村上先生のコラムをご紹介します



村上和雄 先生

筑波大学名誉教授の村上和雄先生は、分子生物学や遺伝子学をご専門とされています。

先生は、「祈り」や「瞑想」は仏神との一体感から生まれる変性に本質があると考え、

宗教的な祈りや瞑想を研究対象とし、「祈りは遺伝子を活性化し、慈悲の心が免疫機能の強化につながる」と、科学的な証明をされました。

研究対象とされたのが、日常的に祈りや瞑想を実践している

高野山真言宗僧侶の遺伝子です。僧侶からは、ウイルスの増殖を抑えたり、感染した細胞を除去したり、ウイルスから身体を守る「僧侶型オン遺伝子」とするものが見いだされたそうです。

それは日々の修行や日常の行で得たものであり、僧侶は自然免疫系が全体に活性化していたそうです。さらに僧侶は他人の感情や行動に対する共感の度合いが高く、その感受性の強さが自然免疫系の活性化に繋がっていると推測しました。弘法大師空海の言葉に『菩薩の用心は、みな慈悲をもって本（もと）とし利他をもって先とす』とあります。これは「菩薩は慈悲の心で他の者の幸せを優先する」という意味であり、人の悲しみや喜びを我が事のように感じ、利他の心を持つことは高い共感性に通ずる。日々の生活の中での祈りや慈悲の心理状態が遺伝子を介して体に影響を及ぼしたのではないかと推察されています。

過去に話題になった「笑い」によって糖尿病患者の食後血糖値の上昇が抑えられたり、免疫が活性化された報告もここに結びつけてきます。

以上、村上先生の記事をご紹介します頂きました。

宗教と科学

このように目には見えない信仰や利他の心、慈悲の心が免疫機能の活性へと繋がり、人々の健康へと繋がるのが科学的根拠として発表された事は、とても衝撃的なことであります。今まで、「宗教」と「科学」というものは、相反するものというイメージがありました。科学が発達する2500年以上前に説かれたお釈迦様の教え、仏教の教えが、現代科学によって

その価値が証明されたことは、仏教界に大きな光明を与えてくれるのではないでしょうか。どれだけ科学が進もうとも、仏教の智慧や慈悲の価値は決して薄れることは無く、逆に科学が進めば進むほど、その素晴らしさが証明されていくのだと僧侶として心強く感じました。

南無妙法蓮華經の信仰

日頃、私は「南無妙法蓮華經」の教えは「慈悲・敬い・感謝」の実践であると考え、自らも実践し、皆様にもお話をさせて頂いております。また、毎月第一日曜日に開催しております浄心道場では、瞑想や座禅会を開催し、自らの心や生き方に目を向ける修行を行っております。



妙法寺へのお参りや、日頃のお仏壇に手を合わせる事が、私達の遺伝子を活性化し、免疫機能の強化につながり、皆様の日々の生活が、健やかにより良いものになるのではないかと、今回、村上先生の記事を紹介させて頂きました。



浄心道場のご案内

浄心道場

日々の疲れた心を癒やし清らかにする
「心みかき」の価値ある日曜日
ゆっくりと自分と向き合う
心豊かな時間

心みかきの価値ある日曜日
ストレス社会と言われる現代を生きる私たちは知らず知らずのうちに「食・飲・怒り・悲」などの煩悩によって不浄な心に覆われ自らを苦しめさせているのです。その不浄な心、疲れた心を日曜日の夕方にスワキリさせ、癒やし清らかにするのが浄心道場です。毎月第一日曜日に開催しております。宗派を問わずどなた様も参加頂けますので、お気軽にお越し頂き、日々の心みかきにぜひお役立てください。

妙法寺 久住謙昭

第一部 供養会 15:00-15:45 <http://myouhouji.jp/>
供養会は、日曜日にだけ行われる「菩提」を弘く法会です。菩提会内にお経とお題目をお読みし、経法を奉じて法会を修めさせていただきます。また、菩提の「菩提樹」をめぐり行います。先着供養は一貫1000円、無着供養は一貫500円でお受けしております。

第二部 法話会 16:00-17:00
法話会では、菩提による仏教のお話だけでなく社会問題も取り上げ、文化や社会問題等、さまざまなお話を発表しております。法話会内容の手紙は、ホームページでご覧頂けます。

最近ではホームページを見てご参加される一般の方も多くなってきました

今号では、毎月第一日曜日に開催している浄心道場の年間スケジュールのチラシを同封しております。是非、ご覧ください。
浄心道場の二部の法話会では、様々な講師をお招きしたり、坐禅修行やワークショップを開催しております。今年の浄心道場は日蓮宗の法話だけではなく、天台宗や臨済宗など、他宗のお坊さんの法話も取り入れております。また、写経や数珠腕輪づくりなどの仏教体験もあり、先述したコラムのように「遺伝子や免疫機能の強化」に繋がる活動ではないかと思っております。
皆様のご参加、お待ちしております。

東日本大震災から

今年で7年

平成23年3月11日に発生しました「東日本大震災」から、今年の3月で丸7年が経とうしております。毎年3月11日には、有志の方々のご協力を得て建立しました、石巻の慰霊塔「久遠の祈り」に赴き、慰霊法要を続けられます。被災地の慰霊への思いは、多くの僧侶達に届き、現在では毎年全国より多くの僧侶が駆けつけてくださいます。

〳日蓮聖人も体験された大震災〵

日蓮宗の開祖、日蓮聖人も大震災を体験されたお一人であります。

日蓮聖人は36歳の時に「正嘉の大地震」という歴史的にも有名な大きな地震を体験されました。正嘉の大地震は、正嘉元年（1257）8月23日に発生した大地震で、現在の研究によると、相模湾沖を震源としたマグニチュード7.5と推測されています。鎌倉に住まわれていた日蓮聖人も被災者のひとりであり、被災地の惨状を目の当たりにした日蓮聖人は、この大地震をきっかけに国難の原因を求め、膨大なる経典を研究され、2年をかけ『立正安国論』という論文を書き上げ、幕府に提出をされ日本の危機を訴えられました。日蓮聖人はこの『立正安国論』を生涯にわたって大事にされ、ご自身の宗教の根幹

とされました。現在、その『立正安国論』は国宝に指定され、千葉県の中法華経寺で守られています。

〳慰霊への思い〵

日蓮聖人が正嘉の大地震を体験されたのは36歳、そして私が東日本大震災を体験したのは36歳（数年）の時でありました。日蓮聖人と同じ年齢に大きな震災を体験したことに、僧侶として感慨深いものを感じ、慰霊塔を建立し、慰霊を続けるきっかけとなりました。時間と共に風化していく震災の記憶を忘れぬよう、これからも慰霊を続け、当時の惨状を伝える使命なのではないかと考えております。



昨年行われた第七回忌法要



全国より駆けつけてくれる僧侶達